

1 ヒルガタワムシのなかま



解説

「ヒルガタワムシのなかま」は、名前のとおりヒルのように体がやわらかく、細長く伸びたり、縮んだりします。おどろいたときや、死んでしまうと頭部や足が縮んで見えなくなってしまう、くわしく分類することがむずかしいなかまです。

特徴

湖や池や沼などでふつうに見られます。水草や泥の表面を伸び縮みしながら、動いたり泳いだりします。大きさは伸び縮みするので、約300～1000μm程度です。体は頭、頸、胴、足の四部分に分かれ、頭部には2つの輪盤と吻があり、吻に1対の眼点があります。足の端には水草などに付着するためのあしゆび趾があります。

解説

ツボワムシのなかまには、殻をもつものやもたないものなど、多くの種類が含まれています。この図鑑には見分けやすい殻をもつものだけがのせてあります。

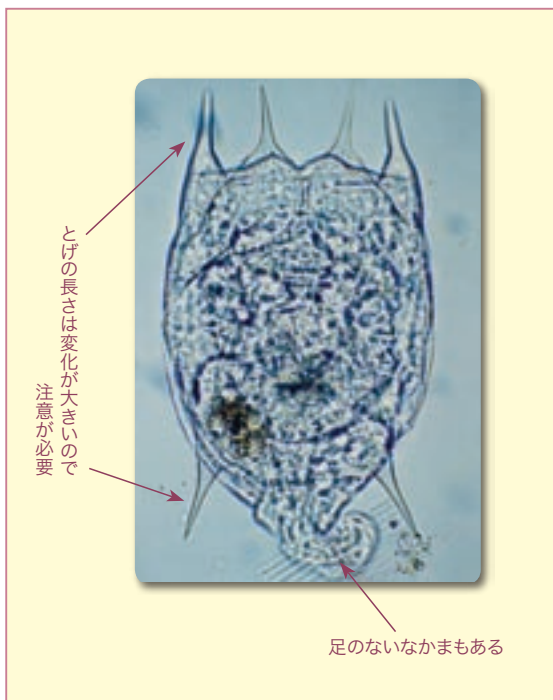
特徴

体をつつんでいる殻の形や表面の模様によってそれぞれ特徴があります。しかし同じ種類であっても、とげの長さなどにちがいががあるので注意が必要です。

この図鑑にのせた属

ツボワムシ属、ツノワムシ属、オケワムシ属、サヤガタワムシ属、ハオリワムシ属、ニセカメノコウワムシ属、カメノコウワムシ属、トゲワムシ属、トゲナガワムシ属、オニワムシ属、チビワムシ属、ウサギワムシ属

2 ツボワムシのなかま



「ツボワムシのなかま」の見分け方

殻の後ろから足を出すことがある	↑は足が出る場所 ↑↑は足が出る場所 ↑↑↑は足が出る場所 (前後の)とげの長さは変化するので注意が必要		↑↑↑は足が出る場所 ↑↑↑は足が出る場所 ↑↑↑は足が出る場所 ↑↑↑は足が出る場所	
	ツボワムシ属		ツノワムシ属	
足がない	円形の殻	五角形の殻	つじょう筒状の殻	背から見ると卵形の殻
	オケワムシ属	サヤガタワムシ属	ハオリワムシ属	ハオリワムシ属
殻が胴と足をつつむ	殻に亀の甲模様がある	つぼ形の殻 前に6本のとげ	細長い殻 前に6本のとげ	後ろに長い 1本のとげ
	ニセカメノコウワムシ属	カメノコウワムシ属	トゲワムシ属	トゲナガワムシ属
殻が頭と胴をつつむ	↑↑は足が出る場所 ↑↑は足が出る場所 ↑↑は足が出る場所 ↑↑は足が出る場所		↑↑は足が出る場所 ↑↑は足が出る場所 ↑↑は足が出る場所 ↑↑は足が出る場所	
	オニワムシ属		オニワムシ属	
殻が頭と胴をつつむ	左右が平たい卵形	背腹が平たい卵形		
	チビワムシ属	ウサギワムシ属		

*この表は『日本淡水動物プランクトン検索図説』を参考にして作成しました。

TOPICS

あしゆび趾について

あしゆび趾は、ワムシのなかまの特徴的な部分です。本来の意味は、手の指に対しての“足の指”ですが、ワムシのなかまでは足の先にある枝分かれした部分を趾と言います。“ゆび”といっても、ワムシの生活のしかたによって形や大きさはさまざまに異なっています。

ヒルガタワムシやツボワムシの趾は比較的小さく、体を物に付着させるのに役にたち、たしかに“ゆび”を思わせます。しかし、ハオリワムシなどでは、長い趾を体の後ろにずっと伸ばしたまま泳いでいますし、さらに、ネズミワムシ(P108参照)では趾は針のように細長くなっています。これらの趾は、足より長くなっていて、とても“ゆび”には見えません。顕微鏡でしか見えない生き物の体の部分をうまく表現することはむずかしいものです。ちなみに、英語でもこの部分はtoe(トー)と呼んでおり、意味はやはり足の指です。

ワムシのなかま